

社会貢献活動

伊藤忠商事は地球的視野に立って「良き企業市民」として果たすべき役割を自覚し、地域社会、国際社会との調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。

地域社会及び国際社会と持続可能な社会を実現するため、5つの重点分野からなる「社会貢献活動基本方針」を定めて活動しています。

社会貢献活動基本方針



1. 世界の人道的課題

⇒関連する活動はP79～80

伊藤忠商事は、グローバルに事業を行う企業として、世界における人道的課題に積極的に関わり、豊かな国際社会の実現に貢献します。



2. 環境保全

⇒関連する活動はP81

伊藤忠商事は、環境保全活動を積極的に行い、社会の持続的な発展に貢献します。



3. 地域貢献

⇒関連する活動はP82～86

伊藤忠商事は、良き企業市民として地域社会との良好な関係を構築し、地域社会との共生を図ります。



4. 次世代育成

⇒関連する活動はP87～89

伊藤忠商事は、次世代を担う青少年の健全な育成を支援する活動を行い、心豊かで活力ある社会の実現に貢献します。



5. 社員のボランティア支援

⇒関連する活動はP90～91

伊藤忠商事は、社員一人ひとりが行う社会貢献活動を積極的に支援します。

社会貢献活動アクションプラン

5つの重点分野からなる「社会貢献活動基本方針」に基づき、社会貢献活動を推進しています。当社ビジネスとの関連も鑑み、毎年それぞれの活動においてCSRアクションプランを策定し、PDCAサイクルに則って社会貢献活動を推進しています。

社会貢献活動基本方針

1. 世界の人道的課題	2. 環境保全	3. 地域貢献	4. 次世代育成	5. 社員のボランティア支援
-------------	---------	---------	----------	----------------

課題	2014年度 行動計画	実施 状況 ※	2014年度の実績	2015年度 行動計画	社会貢献 活動 基本方針 1.~5.
環境保全を目的とした社会貢献事業の実施およびフォロー	ボルネオ森林再生状況のフォロー		2009年より実施している植林（967ヘクタール）が2014年7月に無事完了したことを確認した。今後、維持管理の取組を2016年度まで継続予定。	ボルネオ森林再生事業で植林をした地域の維持管理支援および新規案件の検討	2
次世代育成および地域貢献を目的とした施設運営・啓発活動	① 伊藤忠メディカルプラザの支援 ② 伊藤忠青山アートスクエアの企画・運営 ③ キッザニア東京のエコショップパピリオンの運営		① 10/2にオープン。資金面、情報面等で支援。 ② 様々な社会的課題を解決する一助として「アートを通じた社会貢献」をテーマに展覧会14本を出展者と共に企画・実施し、昨年を上回る来場者となり、オープン以来の来場者数は8万人を超えた。 ③ マイ箸、リサイクルせっけん、POC巾着袋と定期的にエコグッズを変え、年間体験者数も3万人強と、昨年より増えた。	① 伊藤忠メディカルプラザの支援 ② 伊藤忠青山アートスクエアの企画・運営 ③ キッザニア東京のエコショップパピリオンの運営	3.4
世界の人道的課題解決を目的とした国内外の社会貢献事業の推進	① 被災地支援の継続 ② インド移動図書館事業の推進		① 被災地ボランティア派遣・子どもの夢ファンドでの寄付支援に加え、被災地の岩手県陸前高田市ブランド米「たかたのゆめ」の販売支援として、社内外へのPRを積極的に実施した結果、フード・アクション・ニッポン アワード2014販売促進・消費促進部門で入賞。生産農家数：24人、収穫量：260トンと昨年より増加し、農業発展に寄与した。 ② 6月よりインド移動図書館事業を実施、686人の3歳～14歳の子どもたちが登録し、読み書きの機会を得ている。11月14日「子どもの日」には伊藤忠インド会社ムンバイ支店の8名のNSが現地でボランティアに参加する等支援内容が拡大した。	① 被災地支援の継続 ② インド移動図書館事業の継続推進	1.5

※ : 実施 : 一部実施 : 未実施

社会貢献の主な活動：被災地復興支援の取組

2013年3月に発生した東日本大震災は、東日本全域に甚大な被害をもたらしました。伊藤忠商事では、長期的な視野で復興支援に取り組んでいきます。

伊藤忠子どもの夢ファンド

「伊藤忠子どもの夢ファンド」とは、東日本大震災で被災した子どもたちへのサポートを目的に、伊藤忠商事が2013年3月より展開している復興支援活動です。2014年度は下記の支援を実施しました。これからもさまざまなジャンルで、継続的に子どもたちの夢を応援していきます。

■ 「伊藤忠子どもの夢カップ」開催による少年野球チームの支援

震災で甚大な被害を受けた陸前高田市で頑張っている子ども達を支援するため、陸前高田市の全て、7つのスポーツ少年団が参加する少年野球大会「伊藤忠子どもの夢カップ」を「伊藤忠子どもの夢ファンド」を通じて2014年は春季、及び秋季2回開催しました。

春季大会は2014年4月12日、13日、秋季大会は9月27日、28日に、いずれも陸前高田市立小友小学校グラウンドにて開催され、伊藤忠グループ社員もボランティアとして大会に参加しました。特に秋季大会では、伊藤忠商事相互会野球部の現役選手やOBと親善試合も行い子どもたちとの交流を深めました。



■ 第4弾 「伊藤忠子どもの夢サマーキャンプ in 陸前高田」の開催

「伊藤忠子どもの夢ファンド」第4弾として、2014年8月1日、2日の2日間、「伊藤忠子どもの夢サマーキャンプ in 陸前高田」を開催しました。

これは、英語スポーツキャンプを実施しているSCOA(SPORTS CAMP OF AMERICA)のプログラムを利用した、陸前高田市在住の小学5年生～中学3年生（一般募集）を対象にしたスポーツキャンプで、アメリカから13名の大学生アスリートが来日し、英語キャンプのカウンセラー（指導員）としてサッカー、野球、フリスビー、バスケットボールなど様々なスポーツを英語で子どもたちに指導しました。

スポーツという共通言語を通して、また、キャンプファイヤーなどアメリカのサマーキャンプでよく行われるアクティビティを通して、子どもたちが異文化に触れる絶好の機会となりました。



■ 第5弾 「TMSO(Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra : 東京都交響楽団)×ITOCHU Class Concert」の開催

2015年1月27日、28日、いわき市に避難して勉強を続けている、福島第一原子力発電所30km圏内にある楡葉町、広野町の小中学校生の生徒たちに、本物の音楽を間近で感じてもらいたいと、公益社団法人東京都交響楽団（TMSO）による授業形式の弦楽四重奏のコンサートを「伊藤忠子どもの夢ファンド」第5弾として計4回開催しました。

楡葉町立楡葉北小学校・南小学校及び、楡葉町立楡葉中学校は、避難指示解除準備区域に指定されていたため、いわき市中央大飯野にあるいわき明星大学敷地内の仮設校舎の体育館での演奏、広野町立広野小学校及び広野町立広野中学校は教室での演奏会となりました。



伊藤忠たかたのゆめプロジェクト

伊藤忠商事では、岩手県陸前高田市が2013年秋から展開しているブランド米「たかたのゆめ」を食品原料の販売会社である伊藤忠食糧株式会社を通じて販売支援を実施しました。

「たかたのゆめ」は、津波で甚大な被害に遭った陸前高田市が、地域競争力の確保、農業の復興のシンボルとして、地域ブランド米としての確立を目指しているお米です。本プロジェクトでは、生産過程においても伊藤忠グループの社員ボランティアが現地農家の方と交流しつつ、2014年度も5月の田植えから、10月の稲刈りまで継続して支援しています。

伊藤忠グループの持っているプラットフォームやノウハウを活用し、この「たかたのゆめ」が成功するよう生産から販売までを支援することで、本業を通じた被災地支援を行っています。



■ 「3.11食べて応援しよう！たかたのゆめプロジェクトin 青山」の実施

2015年3月11日、青山の街全体で「たかたのゆめ」を応援するキャンペーン「3.11 食べて応援しよう！たかたのゆめプロジェクトin 青山」を実施しました。趣旨に賛同頂いた表参道から青山周辺の参加飲食店舗21店に「たかたのゆめ」を提供し、各店舗のランチタイムのご飯やパンに「たかたのゆめ」を使用したメニューを提供頂き、より多くの方に「たかたのゆめ」を食べて頂くことで、被災地支援につながるイベントで、協力店舗やお客さま一丸となり、陸前高田を応援できる機会となりました。



伊藤忠記念財団を通じた被災地支援活動

■ 伊藤忠記念財団と共に 東南アジアに絵本を贈ろう in 東北

「東南アジアの子ども達へ日本語絵本に現地語翻訳シールを貼って届ける活動」を行っている公益社団法人シャント国際ボランティア会より購入したキットを使用し、現地語の翻訳シールを絵本に貼る作業を、伊藤忠記念財団と共に、毎週、社員ボランティアが行っていますが、この活動を被災地の子どもたちにも拡げる取組を実施しました。2014年度は9月に福島県白河市の「柿の木文庫」や10月に岩手県大船渡市の「盛小学校」など9か所で、現地で子ども読書活動をされている皆さまのご協力を得て、延べ約200名がこの活動に参加しました。



■ 株主の皆様と行う「子ども本100冊助成」

株主様宛情報の電子化にご承認いただき、節約できた用紙代・郵送料等を、伊藤忠記念財団が行う文庫助成に協力する活動を行っています。

2014年度は5,184名の株主様にご賛同いただき、それによって節約された金額と、伊藤忠商事からも同額を寄付して伊藤忠記念財団を通じて東日本大震災で大きな被害を受けた以下の10校に、地元書店を通じて新品の図書セットを届けることができました。



【2014年度寄贈先】

岩手県	大船渡市 猪川小学校、大船渡市 赤崎小学校、陸前高田市 竹駒小学校
宮城県	塩竈市 浦戸第二小学校、仙台市 将監西小学校、名取市 那智が丘小学校
福島県	いわき市 植田小学校、葛尾村 葛尾小学校、須賀川市 第一小学校、福島市 野田小学校

| その他の復興支援活動

■ ニューヨーク国連本部での震災復興支援パネル展支援

2014年7月8日～11日、ニューヨーク国連本部にて、日本政府の主催によるパネル展「復興の力、明日に向かって！ - 国連防災世界会議・仙台開催へのご案内」が開催されました。これは、陸前高田市、仙台市、東北大学災害科学国際研究所、独立行政法人国際協力機構（JICA）が、東日本大震災の被災から現在までの復興への取り組みを国際社会にアピールすることを目的として行ったものです。この開催には、今年3月に行った「東日本大震災3年募金」で伊藤忠グループ社員より寄せられた義援金と、会社からの同額マッチング分の合計1,173,486円が、NPO法人陸前高田市支援連絡協議会Aid TAKATAを通じて役立てられました。



■ おいでよ！東京2014に協賛

2014年8月18日（月）、NPO法人BLUE FOR TOHOKU（代表：小木曾麻里）が実施する「おいでよ！東京2014」プロジェクトへ、被災地支援の一環として協賛しました。「おいでよ！東京」とは、福島の児童養護施設の子どもたちを東京に招待し「笑顔で過ごす夏休みの思い出をプレゼントする」プロジェクトで、伊藤忠商事は当イベントの趣旨に賛同し、キッズニアのチケットを協賛し、参加者全員の施設に伊藤忠記念財団が選ぶ児童図書セットをプレゼントしました。約60名の子どもたちは、午前は職業体験施設「キッズニア」を体験し、午後は、豊洲公園にて開催されたミニ運動会で、かけっこや綱引きをボランティアと一緒に楽しみました。



■ 伊藤忠青山アートスクエアにて被災地支援のチャリティオークションを開催

2015年3月5日から24日まで、伊藤忠青山アートスクエアでは、モンゴルとの文化交流を目的とした「日本モンゴル書道展 - 蒼天と太陽の絆 -」を開催、両国の交流に尽力されている政治家や書道家をはじめとする方々の書道作品89展が展示しましたが、会期中の3月11日で東日本大震災から4年を迎えるにあたり、被災地復興支援に役立てていただくために、作品の一部をチャリティオークションとして販売しました。出品者のご厚意によりオークションにご提供いただいた約30作品のうち、17作品が落札され、総額778,500円を、特に福島を中心とした被災地で復興支援に携わる6つの団体に寄付することができました。



社会貢献の主な活動：世界の人道的課題

災害支援義援金寄付

国内外での大規模災害発生に際し、人道的見地より、義援金拠出・物資の提供を行っています。現地の支店・事務所とも連絡をとりながら下記の支援を実行しました。

■ 最近の義援金拠出例

ネパール地震 2015年4月	¥2,000,000
広島集中豪雨 2014年8月	¥5,000,000
中国 雲南省地震 2014年8月	30万人民元（約513万円）
フィリピン 台風30号(Haiyan) 2013年11月	¥15,563,616
中国 四川省地震 2013年4月	¥5,025,000

WFP 国連世界食糧計画への支援

世界の飢餓・貧困問題を少しでも解消するため、国連の食糧支援機関であるWFP 国連世界食糧計画の公式支援窓口である国連WFP協会の評議員となり、さまざまな活動に参加しています。

2015年5月に横浜で開催された子供の飢餓の撲滅キャンペーンである「ウォーク・ザ・ワールド」に伊藤忠商事及び伊藤忠グループ会社社員372名が参加しました。また、東京本社で、WFPの活動を紹介するパネル展や募金活動を定期的の実施しています。



子供の飢餓の撲滅キャンペーン「ウォーク・ザ・ワールド」に参加

途上国と先進国の食のアンバランスを解消する「TABLE FOR TWO」(TFT)

「TABLE FOR TWO」(「二人の食卓」)は、開発途上国が抱える飢餓と、先進国が抱える肥満や生活習慣病の同時解決に向けて、時間と空間を越えて食事を分かち合うというコンセプトの社会貢献プログラムです。

2007年10月に日本で創設され、伊藤忠商事では翌年4月より東京・大阪・名古屋の社員食堂で、他社に先駆けて本格導入されました。

健康に配慮したTFT対象メニューを社員が購入すると、1食につき20円が寄付されます。これに会社も同額を寄付するマッチング・ギフト方式によって、20円が加算されます。つまり、1食につき40円がTABLE FOR TWOのプログラムを通じて、NPO法人国際連合世界食糧計画WFP 協会に寄付され、開発途上国の子どもの学校給食になっています。

現在、東京本社では2013年5月の社員食堂リニューアル以来TFTの定食を毎日提供しています。2014年11月には、10月16日の世界食料デーに合わせて「世界食料デー ITOCHUキャンペーン～私たちにできること～」を実施し、期間限定メニューの開発や動画によるTFTの宣伝など、独自の取り組みを行いました。2014年度は、28,725食の利用があり、574,500円寄付することができました。こうした活動が評価され、2015年5月にはプラチナサポーターとして表彰されました。

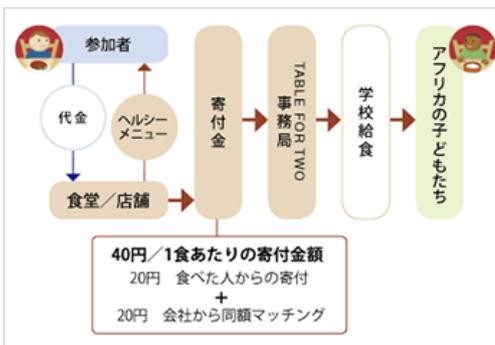


TABLE FOR TWO
ガイドライン

1. カロリーが
730kcal (680～
800kcal) 程度
2. 栄養バランスが適正
3. 野菜が多め

ITOCHU キャンペーン ～私たちにできること～
11月4日～10日、ライブコーナーでTFTメニューを販売!

ライブコーナーでいただける「秋の味」
 (青)オームレック 秋なすのポロネーゼソース
 (赤)グリルチキン 揚げ鶏ソース
 (水)ハンバーグステーキ きのこの和風ソース
 (木)オムライス 鶏と香のホワイトクリームソース
 (金)おぼんざい 6種雑から選べるおぼんざい

あなたの
カロリーオフな1食で、
世界の子どもに
給食が送られます。

100万人のいただきます!
世界食料デーキャンペーン2014

感謝状

プラチナサポーター
伊藤忠商事株式会社様

皆さまからお寄せいただいた
TABLE FOR TWOへのご支援により、
飢餓や栄養不足にさらされている
アフリカの多くの子どもたちに、
温かい給食と未来への希望を届ける
事ができました。
継続的な力強いご支援・ご協力に
心より感謝申し上げます。

2015年5月
伊藤忠商事株式会社
TABLE FOR TWO International
代表 小島 真 氏

世界エイズデーに合わせタイのエイズ孤児支援

12月1日は、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的にWHOが1988年に制定した「世界エイズデー」です。この日に合わせ、伊藤忠青山アートスクエアでは、北タイのエイズ孤児施設のアート展

「バーンロムサイの物語」を14日まで開催し、また東京本社B1Fではバーンロムサイのオリジナルグッズ(ファブリック雑貨、ステイショナリー等)の社内販売会を実施しました。ホームの子どもたちやHIV感染者、山岳民族の女性たちによるハンドメイドの温もりある魅力的なグッズが好評で、売上はバーンロムサイの活動資金に充てられました。



社内販売会の様子

社会貢献の主な活動：環境保全

ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

伊藤忠は、2008年に創業150周年を迎え、これを記念する社会貢献活動として社員アンケートにより要望が多かった「森林保全」をテーマとした本プログラムの実施を決定、2009年度から公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF)と協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しています。

伊藤忠が支援する森林再生地のボルネオ島北東部のマレーシア国サバ州北ウルセガマでは、WWFが現地サバ州政府森林局と連携して森林再生活動を行っており、そのうち967ヘクタールの再生を支援しました。これは一般企業の植林活動支援としては最大規模の面積です。絶滅危惧種に指定されているオランウータンの生息地域であることから、このプログラムをITOCHU Group : Forest for Orang-utanと名付け、伊藤忠グループ各社と協力して推進しました。

グループ会社も含めた社員ボランティアが現地での植林活動（植樹、草刈など）や野生動物の観察等を目的に4年に亘り現地へ定期的に訪れました。



苗木の植樹

マニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトを支援

1912年に開設したマニラ支店の100周年を記念し、2012年6月にフィリピン中部のソルソゴン州農村地帯においてマニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトの支援について、フィリピン繊維産業開発局及び地元の農業組合であるSt. Ann's Family Service Cooperativeと協定を締結しました。これに基づき、90ヘクタール分（約14万4千本）のマニラ麻の植付と栽培に必要な資金の全額である200万円を拠出しました。2015年3月時点で、70%にあたる63haの作付が完了し、2015年7月までに完了予定です。また、本プロジェクトを通じて年間18トンのCO2吸収が見込まれています。



キッサニア東京「エコショップ」出展によるケニアの植林活動支援

伊藤忠商事は、こども向け職業体験施設「キッサニア東京」に、子どもがエコ活動を体験できる環境パビリオン「エコショップ」を2012年4月から展開しています。当パビリオンでは、子ども一人の参加ごとに、植林用の苗木1本分の費用がケニアの植林活動である「グリーンベルト運動」に寄贈される仕組みとなっており、2015年3月迄に約9万人の子ども達がアクティビティに参加し、約9万本の苗木に相当する費用をケニアに寄贈しました。この費用は、ケニアにおける植林の他にも、森林再生の取り組みを継続する際の雨水貯留や、生態学的に健全な森林資源の活用を目的とした地域住民へのワークショップの実施等に使用されています。2015年3月には、「エコショップ」パビリオン3周年を記念し、今までエコショップを体験してくれた子ども達の中から抽選で20名の親子を東京都海の森で行われた植樹イベントに招待しました。



子どもの参加1人につき、植林用の苗木一本分の費用を「グリーンベルト運動」に寄贈



ケニアの植林活動
(写真提供：毎日新聞)



東京都海の森で行われた植樹イベント

社会貢献の主な活動： 地域貢献

「伊藤忠メディカルプラザ」設立で、神戸医療産業都市の発展へ寄与

2014年10月、国内最大級の医療クラスターである神戸医療産業都市に国際医療交流を目的とした施設「伊藤忠メディカルプラザ」がオープンしました。伊藤忠商事は運営主体の公益財団法人神戸国際医療交流財団に対して建設資金として5億円を寄付しています。東南アジアを中心とした諸外国の医師や医療関係従事者へ教育・技術トレーニング等の人材育成や、海外からの研修生受入事業、大学などと連携した医療機器開発など各種研究事業等の発展が、国内外で期待されています。



伊藤忠メディカルプラザ外観

地域のCSRの拠点「伊藤忠青山アートスクエア」

2012年10月に東京本社に隣接するシーアイプラザに、CSRの拠点として「伊藤忠青山アートスクエア」をオープンしました。アートを通じた「次世代育成」、「地域貢献」、「国内外の芸術や文化の振興」を目的に、みずみずしい感性あふれる優れた作品展や国際交流の懸け橋となるイベントなどを、さまざまな文化が息づく街、東京・青山から発信しています。2014年度は下記の通り14件の展覧会を行い、2015年3月末時点でオープン以来の来場者数は8万1千人を超えました。

今後も、伊藤忠は、アートを通じて様々な社会的課題に取り組み、定期的に展覧会を実施することによって、地域の生活文化創造への貢献を目指していきます。

会期	展覧会	課題	概要
2014年4月7日～ 4月29日	アンディ・ウォーホル・ インスパイア展	地域連携	60～70年代、画期的なアーティストであったアンディ・ウォーホルの影響を受けた国内外の作家の作品を展示。 森美術館「アンディ・ウォーホル展：永遠の15分」と連携し無料のシャトルバスを運行。
2014年5月3日～ 5月31日	自転車博覧会2014 IN AOYAMA	地域貢献	自転車月間である5月に、自転車愛好家のとっておきの一台を中心に、世界各国の珍しい自転車も展示。「自転車に優しい街」である青山の町興して地域のスポーツイベントとも連携。
2014年6月6日～ 7月7日	江戸切子若手16人展	次世代育成	2013年に続き2回目の開催で、伝統工芸の継承と職人の時世代を育成を狙う。テーマを「青」とし、職人たちがそれぞれがもつ「青」のイメージを、江戸切子とその技によって表現。
2014年7月11日～ 7月31日	『Opa! 陽気な黙示録』凱旋展	国際交流	1月から3月まで、ブラジル・サンパウロにあるインスティテュート・トミエ・オオタケ美術館で開催され、日伯で反響を呼んだ展覧会の凱旋展。
2014年8月6日～ 8月26日	世界環境写真展 ～地球を愛する写真家たち～	環境保全	世界環境写真家協会が環境意識の高い世界中の写真家の作品110点を一堂に集めた夏休み特別企画の写真展。
2014年9月8日～ 9月23日	映画「ルパン三世」衣装展	次世代育成	ファッション界における次世代育成として、映画「ルパン三世」の衣装を担当したデザイナー・中里唯馬氏がデザインした衣装を展示。
2014年10月1日～ 10月7日	隅野由子ことば展	障害者自立支援	障害者の社会的自立の支援として、関西在住のダウン症の書画家 隅野由子さんの心温まることばの書の展覧会。
2014年10月13日～ 11月3日	スタジオクーカの世界展	障害者自立支援	障害者の自立支援に繋げる「ファッション×アールブリュット（障害者アート）」がテーマで、平塚市にある福祉施設スタジオクーカ（アトリエ）所属の、様々な障害を持ったアーティスト総合展示会。
2014年11月13日～ 11月25日	子どもの本の力展	次世代育成	「すべての子どもに本を」という共通理念で、子どもの本を通しての国際交流活動を続けてきたJBBYと、子どもたちの読書啓発活動に携わってきた伊藤忠記念財団の40周年記念の展示会。
2014年12月1日～ 12月14日	Under the Tree Charity Exhibition バーンロムサイの物語	人道的課題	12月1日の世界エイズデーに合わせ、タイ（チェンマイ）でHIV感染の子どもたちを支援しているNGOバーンロムサイのアート展覧会。
2014年12月19日～ 2015年1月18日	ーアートで祝おう2015ー 羊がいっぱい!展	次世代育成	35歳以下の新進気鋭若手アーティスト100人強が2015年の干支である「羊」を描く大展示会。

会期	展覧会	課題	概要
2015年1月26日～ 2月22日	磯部光太郎日本画展 － Biotop 生き物のいる場所－	環境保全・ 次世代育成	「Biotop (ピオトープ)」をテーマに、日本画の古典的な技法で、そこに集まる小さな生き物や植物をモチーフに感性豊かに表現している磯部氏の日本画展。
2015年2月24日～ 3月2日	白鵬関 幕内最多優勝記録達成記念写真展	国際交流	日本モンゴル文化交流第1弾。 モンゴル出身の横綱・白鵬関が1月の大相撲初場所で史上単独最多33度目の優勝を飾った記念写真展。
2015年3月5日～ 3月24日	日本モンゴル書道展 －蒼天と太陽の絆－	国際交流	日本モンゴル文化交流第2弾。 両国間の文化交流取極締結40周年記念として2014年モンゴルで開催された書道展の日本側での開催。日本とモンゴルの政治家や書道家の作品を展示。



オープニングセレモニー



安倍首相が日本モンゴル書道展を視察



デザイナー コシノジュンコさんと岡藤社長が談笑



江戸切子展

伊藤忠ロビーコンサート開催を通じた地域貢献

2014年7月23日、New York Symphonic Ensembleによる第23回伊藤忠ロビーコンサートを東京本社1Fロビーにて開催し、お客様やOB・OG、社員など800名以上の方々にご来場いただきました。

例年開催している竹下景子さんと小林会長の対談に加え、「次世代育成」、「地域貢献」の一環として、第二部で当社近隣にある國學院高校の吹奏楽部生徒35名との共演を行い、保護者や近隣の高校生、約100名を招待しました。高校生が、高原指揮者との2日間の事前練習会の成果を存分に発揮し、プロのオーケストラに交じって一生懸命演奏している姿に、終演後の会場は感動の渦に一つなりました。

2015年度は会場をサントリーホールに移し、「第1回伊藤忠サマーコンサート」としてより地域に開かれたイベントとしての開催を計画しています。



竹下景子さんと小林会長の対談



NYSEと國學院高校の共演

インドでセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと移動式図書館事業を展開

ムンバイ市M-East区で、ストリートチルドレンや児童労働に従事する、学校に通っていない子どもたち約1,000人を対象に移動式図書館事業を行っています。2013年～2014年の2年で2千万円を投じて支援するもので、移動式図書館として運行するバスにラッピングを施し、椅子、黒板、そして本棚を設置し、2名の教育ファシリテーター（※1）とカウンセラーを配置した、学校の学習環境と近い内装にしました。音声や動画などの教材も駆使して楽しく参加できる学習の機会を提供することで、子どもたちが学校へ通うための橋渡しになることを目的としており、この移動図書館を通じて1年間で686人の子どもたちが学びの機会を得、うち86人が正規の学校教育に戻ることができました。

本事業には、伊藤忠ムンバイ支店の社員もボランティアとして支援を行っており、11月14日のインドの「子供の日」には、同地区のストリートチルドレンや児童労働に従事する学校に通っていない子どもたち45名を招待してお絵描きイベントを開催、地域の子どもたちと交流を図りました。

※1 教育ファシリテーターとは、移動式図書館における教員の役割を果たす職員。多様な年齢やバックグラウンドからなる子どもたちが自主的に学び、参加できる学習環境の場づくりを行う。



ムンバイ支店の社員ボランティア



バスの中で子どもたちと一緒に

認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）のフィリピンでの青少年支援施設サポート

開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模災害の被災児等を支援する認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）を通して2009年12月、フィリピンのマニラ郊外にある青少年自立支援施設「若者の家」リニューアルオープンに係る支援を、2012年には子供たちの将来の自立支援に繋がる職業訓練所として新たな改築が行いました。

2013年11月、同施設の地下や屋根を改修したことで、実践的な技術習得のための職業訓練コースの拡充が可能になりました。現在も、この施設を通し、年間約1,000名の青少年に対しさまざまな支援が行われています。

伊藤忠フィリピン店の社員もボランティアとして支援を行っており、2014年12月6日にはクリスマスと一緒に祝うため若者の家を訪れ、子どもたちとゲームやバスケットボールなどを楽しみました。



新しくなった地下のミシンルーム



手工芸製作の職業訓練



子どもたちと2014年のクリスマスを祝いました

海外店での地域貢献活動

伊藤忠商事は世界64ヶ国に113拠点の海外店（2015年4月1日現在）を持ち、それぞれの地域において事業活動による地域貢献に加え、地域社会の一員として、地域の課題は何か、伊藤忠らしい貢献は何かについて考え、各地で地域貢献活動を行っています。下記は2014年度に実施した活動の抜粋です。

アメリカ

ニューヨークで社員がチャリティランイベントに参加

ITOCHU International Inc.では、社員が地域貢献となるボランティアに積極的に参加しており、2014年6月には約50名がセントラルパークで催されたJ.P.モルガン社主催チャリティランに参加しました。参加費はニューヨークのシンボル、セントラルパークを管理している団体に寄付されます。



ブラジル

サンパウロでチャリティバザーに参加

伊藤忠ブラジル会社の社員有志は、日本からの移民が1958年に設立した高齢者の方々の施設「憩の園」にて、2014年8月に行われたチャリティバザーに餃子の屋台を出店、販売し、その餃子の売上に伊藤忠ブラジル会社の社員からの募金と会社からの寄付を合わせ11,371リアル（約41万円）を同施設に寄付しました。



イギリス

日欧文化理解促進のための日英音楽協会への寄付

伊藤忠欧州会社では、日英両国の音楽を通じた文化交流を目的として、日本大使館が後援する日英音楽協会主催のクリスマス・コンサート「ヘンデル・メサイア」に長年協賛しています。



ガーナ

小学校への図書寄贈と絵本の読み聞かせを実施

アクラ事務所では、チョコレート原料となるカカオ豆のトレードを通じて、生産地の地域住民たちと交流を深めています。2014年度には、アクラ事務所長個人所有の図書150冊を小学校に寄贈、その際、幼児・児童約70人に絵本の読み聞かせを行いました。



パキスタン

カラチ事務所にて地域の病院訪問病気の子どもたちと交流

カラチ事務所社員は、小児患者を中心にサラセミアの治療を無料で実施している病院を訪問し、子どもたちと交流を持ち、また献血活動にも参加しました。サラセミアは、地中海沿岸に多くみられる遺伝病で「地中海貧血」とも呼ばれます。



オーストラリア

Clean up Australia Dayへの参加

毎年3月の第1日曜日はClean up Australia Dayと定められており、伊藤忠豪州会社の社員ボランティアもシドニー日本人会と共に毎年参加しています。2014年度は2015年3月1日に開催され、シドニーの北部にあるレーン・コーブ国立公園の清掃を行いました。



中国

出稼ぎ労働者子女の学校を訪問・学習用具の寄付

伊藤忠(中国)集团有限公司(北京)では、2014年4月、教育支援の目的で、小関総代表を始めとする社員・家族等50名以上が、出稼ぎ労働者子女のための学校 北京市懷柔区育才学校を訪問、生徒の皆さんと交流し、授業用PCや運動用品などを寄付しました。



シンガポール

植物園「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」の環境美化活動

2014年7月シンガポール会社社員有志は、当地のガーデンシティとしての魅力向上を狙って2012年に開園した国内最大の植物園にて、環境美化活動を実施しました。



アゼルバイジャン

イスラム諸国青年クラシック奏者音楽祭の支援

伊藤忠石油開発株式会社アゼルバイジャンは、2014年4月にカイナット・ユース・センターが開催した第3回国際イスラム諸国青年クラシック奏者音楽祭において、キルギスからの参加者にバクーまでの航空券を提供し、同音楽祭を支援しました。



国内拠点の地域貢献活動

東京本社

東京本社近辺で、社員による地域清掃活動を実施しています。地域社会の一員として、地元自治会や近隣の他企業の皆さんと協力して清掃や啓発物配付を行っています。



大阪本社

2014年度で6年目を迎えた和歌山県伊都郡かつらぎ町の「天野の里づくりの会」との協働活動は、企業と農村地域の方々が地域資源を活用しながら安心・安全な米作りや地産地消の推進、地域の景観保全に協働参画するプログラムです。毎年春の田植えと秋の稲刈りに、繊維カンパニー若手社員の教育の一環としても取り組んでいます。2014年も5月24日に田植え、9月27日に稲刈りを行い、それぞれ社員とその家族約80名が参加、「天野の里づくりの会」の方々約50名と交流を深めました。



中部支社

中部支社では、名古屋市の「全市一斉クリーン・キャンペーン・なごや2014」の趣旨に賛同し、2014年6月11日に名古屋伊藤忠ビル近隣清掃活動を実施しました。当日は、杉本支社長（当時）をはじめ、関係会社を含む34名が参加しました。なお、当日の活動概要は名古屋市のホームページにもキャンペーン参加企業として掲載されました。



九州支社

九州支社は、2011年から、通販会社のフェリシモが企画する「ぬいぐるみを贈る運動（ハッピーイズプロジェクト）」に参加しています。テーマは年度ごとに決められ、型紙を購入し、古着や端切れを使って、約3か月かけて作成します。日本国内のみならず、世界中に送られ、愛情のこもったぬいぐるみが子供たちの笑顔を咲かせています。



中四国支社

中四国支社では、ひろしま駅伝清掃ボランティア、ごみゼロ・クリーンウォーク、フラワーフェスティバル清掃ボランティア、クリーン太田川、平和祈念式典助ボランティア等、地域貢献活動へ積極的に参加すると共に、文化イベント・コンサート等への支援、被爆70周年記念事業への寄付、児童養護施設への支社員からの自主的寄付等も行っています。



北陸支店

北陸支店では、2014年10月26日に開催された障害を持つ方々のスポーツ大会である「第23回ほほえみフェスタ金沢」に、伊藤忠グループから14名が、ボランティアとして競技設営・運営総括のお手伝いに参加、参加者の皆さんとの交流を深めました。



社会貢献の主な活動：次世代育成

伊藤忠記念財団への支援

伊藤忠商事は、1974年に伊藤忠記念財団（2012年に公益財団法人に移行）を設立して以来、青少年の健全育成を目的とした社会貢献活動を継続して進めてきました。

現在は、「子ども文庫助成事業」（日本人学校、補習校への図書助成を含む）、「電子図書普及事業」を活動の柱に、子どもたちの健全な成長に寄与する活動を行っています。

2014年11月、伊藤忠記念財団は創立40周年を記念して、伊藤忠青山アートスクエアにて一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）と共に「子どもの本の力展」を開催、電子図書普及事業の「マルチメディアDAISY図書」を展示して好評を得ました。会期中、皇后陛下にもご視察いただき、激励のお言葉を賜りました。



「本の力展」マルチメディアDAISY図書の展示

マルチメディアDAISY図書とは、様々な障害のために、通常の本では読書が困難な子どもたちに向け、児童書を電子化して配布する事業で、これまで182作品を電子化し、のべ3,305ヶ所に寄贈しました。

■ 子ども文庫助成（2014年度）

	助成件数
子どもの本購入費助成	47件（うち海外3件）
病院施設子ども読書支援 購入費助成	8件
子どもの本100冊助成	22件（うち海外3件）
海外日本人学校／補習校図書助成	5件
子ども文庫功労賞	2件
東日本大震災被災地支援	10件
合計	94件（うち海外11件）

■ 電子図書普及

	2014年度	累計※
製作作品数	55作品	182作品
送付先	909箇所	3305箇所

※2011年度からの累計

「キッズニア東京」にて環境パビリオンを展開

伊藤忠商事は2012年4月より、こども向け職業体験施設「キッズニア東京」に環境パビリオン「エコショップ」を展開しています。

伊藤忠が参画する世界的な環境活動「MOTTAINAIキャンペーン」での環境教育のノウハウを活かし、子どもがエコ活動を体感できるように、環境素材を使ったエコバッグ、マイ箸、リサイクルせっけんづくりなど自分だけのオリジナル商品を製作できます。2014年8月には、商社の仕事を実際に体験できる特別プログラムとして「Out of KidZania ブランドビジネスの職業体験」を東京本社にて、二日間に亘り開催しました。伊藤忠商事が取り扱っているブランド「瞬足」の新しいブランドビジネスについて子どもたちが考えプレゼンテーションまで行うイベントですが、実際に小学生が考えた靴下のデザインが後日商品化され全国の量販店で販売されるなど、伊藤忠商事ならではの職業体験を子どもたちに提供することができました。

今後も、子どもに人気の高い施設である「キッズニア東京」に、グローバルな視点で環境保全について楽しく学べる場を提供すると共に、子ども達に様々なイベントを提供し、持続可能な社会を担う青少年の育成を目指してまいります。



リサイクルせっけんづくりの様子



アウトオブキッズニアに参加した子ども達が新商品のプレゼンテーションをする様子

中国大学生のホームステイ受入

伊藤忠商事では、中国大学生に日本をよく知ってもらうための中国日本商会主催の「走近日企・感受日本」プログラムに第1回から協力しています。日中友好の目的で、年2回、中国からの大学生が来日し、民間交流を図るプログラムで、2014年度も5月に第14回、11月に第15回の同プログラムが実施され、伊藤忠グループからそれぞれ2名と4名の社員が中国大学生をホストとして受け入れ、家族と一緒に民間ベースの交流を楽しみました。



歓送会での記念写真

日経GSRにて大学生の社会起業家育成支援

伊藤忠商事は、公益財団法人日本経済研究センターが主催する日経GSR（Global Social Responsibility）研究会のプログラムの一つである「日経GSR学生アイデア・コンテスト」を第1回から支援しています。本コンテストは、出場校が企業2社をマッチングさせて、ビジネスを通じた地球規模の社会課題の事業プランを競うものです。

第5回となる2014年のコンテストでは、伊藤忠商事が支援した慶應義塾大学チームの「タイにおける栄養の二重苦解消プロジェクト」が「ユニーク賞」を受賞しました。



慶應義塾大学チームのプレゼンテーション

在日ブラジル人学校の支援

日本の在日ブラジル人学校の子どもの直面する課題として、子どもたちの日本語力の不足、貧しい施設や教材不足、不就学児童の多さなどの問題があり、日本で暮らしながら日本の文化や言葉に触れる機会が少ないのが現状です。

伊藤忠商事では2014年7月に在東京総領事館の管轄下にある10校に対し、伊藤忠記念財団が選書した日本語の「子どもの本100冊セット」と特製の本棚を寄付し、2014年7月18日に贈呈式を執り行いました。その機会に、群馬県邑楽郡大泉町の在日ブラジル人学校から25名の生徒・児童の職場訪問を東京本社で受け入れました。伊藤忠青山アートスクエアにて開催していた「Opa! 陽気な黙示録」凱旋展と連携して、ファッションデザイナーのコシノジュンコさんと現代美術家の矢柳剛さんによる「かたつむりアート」のワークショップの他、ブラジルとゆかりのある社員から商社の仕事について説明を聞くなど伊藤忠と母国との関わりについて理解を深めてもらいました。



商社の仕事についてレクチャー



贈呈式にて

夏休み環境教室の実施

伊藤忠商事では、1992年より東京都の小学生を主な対象として毎年「夏休み環境教室」を開催しています。

2014年度は、学研科学創造研究所にご協力をいただき、「学研のエジソン」こと湯本博文所長による科学実験ショーや工作教室「発電ヘリコプターを作ろう」が行われ、43名の小学生の参加がありました。

また、終了後、伊藤忠青山アーツスクエア「世界環境写真展」との連動企画で小学生向けのトークショー「環境について考えよう：野生生物を守るためにできること」を開催、WWFジャパン広報室の辻さんにお話しいただき、子どもたちはオランウータンやパンダなど世界の絶滅危惧種などについて勉強しました。



工作に夢中の子どもたち



WWFジャパンによるトークショー

小中高校生の企業訪問の受入

伊藤忠商事では、文部科学省の指導要領に企業訪問が組み込まれたことに呼応して、企業として「生徒が社会的役割・職業生活を理解し、社会人としての自立を促す」ことをサポートするために、小中高校生の企業訪問を受け入れています。

2014年度は、東京本社において、近隣地域の青山小学校や、二代目伊藤忠兵衛の母校でもある滋賀県立八幡商業高等学校など、計7校の訪問を受入れました。また、東北支社では、仙台白百合学園高等学校を受入れ、環境に関する総合学習を行いました。



青山小学校の校外授業「高いところから地域を見る」



八幡商業高校のワークショップ

社会貢献の主な活動：社員のボランティア支援

伊藤忠では年間最長5日間のボランティア休暇を取得できる制度や、休日・昼休みなどに参加できるプログラムなども開催することで、社員の意識醸成に努めています。

東日本大震災復興支援 社員ボランティア

震災直後から始まった復興支援ボランティアを2014年度も継続、伊藤忠グループとして合計74名が参加しました。活動内容は、震災直後のがれき撤去などから、被災者の皆さんの復興を直接支援するものになってきています。具体的には、田植え、稲刈りや、整地作業、薪の伐採、地元でのイベント開催支援、被災者の皆さんの集会所の整備、少年野球大会運営等の活動を行いました。

被災地の復興にはまだまだ時間がかかる見込みですが、今後も被災地の状況に適したボランティア活動を続けていきたいと考えています。



ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

2009年から公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しており、毎年グループ会社の社員や海外で働くナショナルスタッフなどと共に、社員ボランティアツアーを組んで定期的に現地を訪れ、2012年までの全4回で59名が現地で植林活動を行いました。



その他社員が参加できるボランティア・プログラム例

飲料自動販売機による「チャイルド・ケモ・ハウス」の支援

日本初の小児がん専門治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営をサポートするため、東京・大阪本社内にケモ・ハウス仕様の飲料自動販売機を設置し、両ビル内に設置されるすべての飲料自動販売機の売上の6～10%相当の金額を寄付しています。2014年度は計421,456本の売上により、計2,528,736円の寄付を実施しました。



日本赤十字社による献血活動（東京本社）開催：1月、7月

毎年2回、日本赤十字社による献血活動を東京本社内で実施しています。貴重な献血は、手術の際にはもとより、現在では白血病などの治療にも広く活用され、献血の重要性はさらに高まっています。当日の体調や、海外滞在時期や地域の規定により、献血できないケースもありますが、毎回、グループ会社含め多くの社員が会場に足を運んで来ています。

2014年度も2014年7月16日と2015年1月27日に行い、それぞれ102名（申込者数134名）、113名（申込者数147名）の社員が協力しました。

■ 神宮球場（青山）にて伊藤忠野球教室を開催

青少年育成の一環として障がいのある子供達に、さまざまなことに挑戦する機会を与えたい、自分の可能性を見出す機会を創出する手助けをしたいとの考えのもと、2007年より野球教室を開催しています。

元ヤクルトスワローズ投手の矢野講師より、スポーツマンシップのお話や基礎的な動きなど、家庭での練習ではなかなか身につかない基本から、ノックのとり方や投球練習などの実践までを教えてくださいました。指導のボランティアとして、伊藤忠商事相互会野球部に所属する社員もボランティアとして参加しています。

2014年度は27名の子どもたちと、48名の伊藤忠グループのボランティア社員が参加し、参加者の保護者からは「家庭や学校では見られないような活き活きとした姿を見ることができた」などの感想も寄せられ、大変好評をいただき、毎年社員ボランティアも増加しています。



■ 絵本を届ける運動（東京/大阪両本社・名古屋支社、金沢支店）

日本語絵本に現地語のシールを貼り、東南アジアの子どもたちに贈る活動で、東京本社では、毎週木曜日の昼休みに5F社友室を借りて活動中です。



■ 「スワンベーカリー」のパン販売

スワンベーカリーとは、障がいを持つ人々に適正な賃金での雇用を促進する目的で、ヤマト財団により設立されたベーカリーで、2008年5月より、毎週水曜日に「スワンベーカリー」のパンを東京本社の社員食堂にて販売しています。多くの社員が積極的に購入し、スワンのみなさんからも「毎回パンをたくさん買ってもらい、有難い」と好評です。



■ ふれあいのネットワーク 自然観察会

新宿御苑自然観察を4月初旬、セミの羽化観察会を8月初旬、横沢入観察会を10月初旬に実施し、社員及びその家族が参加しています。



■ ふれあいのネットワーク 音読部会 開催：第2土曜日

伊藤忠グループ社員、OB・OGの有志が、毎月1回、渋谷の高齢者施設を訪問し、音読や合唱を通じて交流を行っています。10年以上継続しているので感謝状もいただきました。

